

周産期学シンポジウム(合併前:日本周産期学会) 学術集会の軌跡

◇合併以降

周産期学シンポジウム:歴代会長,学術集会の開催日時,場所,テーマ

| 回 | 会長名 | 所属 | 開催年月日 | 開催地(会場) | テーマ |
|----|-------|-------------------------|-----------------|------------------|--|
| 37 | 臼井 規朗 | 大阪母子医療センター 小児外科 | 2019年2月8日, 9日 | 大阪国際会議場 | 胎児診断から始める治療戦略 |
| 36 | 中村友 彦 | 長野県立こども病院 総合産期母子医療センター | 2018年1月19日, 20日 | 長野(メトロポリタン長野) | 母体・胎児・新生児の立場から常位胎盤早期剥離を考える～母児の予後改善のために～ |
| 35 | 光田 信明 | 大阪府立母子保健総合医療センター 産科 | 2017年2月10日, 11日 | 大阪(グランフロント大阪) | 周産期医療における「遺伝」を考える |
| 34 | 中尾 秀人 | 兵庫県立こども病院 周産期医療センター | 2016年2月5日, 6日 | 神戸(神戸国際会議場) | 母児の予後からみた娩出のタイミングと方法 |
| 33 | 金山 尚裕 | 浜松医科大学医学部産婦人科学講座 | 2015年1月23, 24日 | 浜松(アクトシティ浜松) | 周産期の炎症と感染～長期予後改善を目指して～ |
| 32 | 田口 智章 | 九州大学大学院医学研究院小児外科学分野 | 2014年2月7日, 8日 | 福岡(九州大学医学部百年講堂) | Pretermを考える～preterm児のCPと late pretermの諸問題～ |
| 31 | 北島 博之 | 大阪府立母子保健総合医療センター | 2013年1月25日, 26日 | 大阪(大阪国際会議場) | 成熟児のasphyxia とcerebral palsy |
| 30 | 松田 義雄 | 東京女子医科大学産婦人科・母子総合医療センター | 2012年2月3日, 4日 | 東京(シェーンバウハ・サポール) | 長期予後からみた出生前診断症例における周産期管理の再評価 |
| 29 | 橋本 武夫 | 聖マリア学院大学 | 2011年1月14日, 15日 | 佐賀(どんぐり村) | 周産期における鎮静・鎮痛・麻酔 |
| 28 | 齋藤 滋 | 富山大学大学院医学薬学研究部産科婦人科 | 2010年1月15日, 16日 | 京都(国立京都国際会館) | 周産期と医療安全 |
| 27 | 大戸 斉 | 福島県立医科大学附属病院輸血・移植免疫部 | 2009年1月16日, 17日 | 郡山(ビッグパレットふくしま) | 早産重症胎児発育不全 Severe preterm FGR(IUGR) |
| 26 | 小泉 武宣 | 群馬県立小児医療センター | 2008年1月18日, 19日 | 高崎(メトロポリタン高崎) | 周産期の栄養 |
| 25 | 末原 則幸 | 大阪府立母子保健総合医療センター | 2007年1月19日, 20日 | 大阪(大阪市中央公会堂) | 周産期の輸血治療をめぐる |
| 24 | 田村 正徳 | 埼玉医科大学総合医療センター | 2006年1月20日, 21日 | 大宮(大宮ソニックシティホール) | 母体・胎児・新生児の心肺機能低下時の反応と対応 |

◇創立より合併まで

日本周産期学会：歴代会長，学術集会の開催日時，場所，テーマ

| 回 | 会長名 | 所属 | 開催年月日 | 開催地(会場) | テーマ |
|----|--------|------------------------|-----------------|--------------------------|---|
| 23 | 名取 道也 | 国立成育医療センター | 2005年1月21日, 22日 | 東京 (シェーンバッハ・サボー) | 生活, 環境, 薬剤などの母児に及ぼす影響 |
| 22 | 戸莉 創 | 名古屋市立大学小児科 | 2004年1月23日, 24日 | 名古屋(全日空ホテルグラン コート名古屋) | 母児の予後からみた娩出のタイミング |
| 21 | 中林 正雄 | 総合母子保健センター 愛育病院 | 2003年1月17日, 18日 | 東京(東京プリンスホテル) | 21世紀の周産期医療システム: 問題点と展望 |
| 20 | 藤村 正哲 | 大阪府立母子保健総合 医療センター | 2002年1月18日, 19日 | 大阪(大阪国際会議場) | 不妊治療と周産期医療 |
| 19 | 佐藤 章 | 福島県立医科大学 産婦人科 | 2001年1月19日, 20日 | 東京(サンケイプラザ) | 予後不良因子を有する胎児・新生児への医学的対応 |
| 18 | 仁志田 博司 | 東京女子医科大学母子 総合医療センター | 2000年1月22日, 23日 | 東京(東京女子医科大学 弥生記念講堂) | 胎児・新生児の予後に影響を及ぼすウイルス感染(トキソプラズマを含む) |
| 17 | 佐藤 郁夫 | 自治医科大学産婦人科 | 1999年1月22日, 23日 | 東京(サンケイ会館) | 妊娠中期の胎児評価・管理および新生児予後 |
| 16 | 中村 肇 | 神戸大学小児科 | 1998年1月23日, 24日 | 神戸(松方ホールほか) | 周産期の炎症とその周辺 A: 周産期の細胞障害 B: 子宮内感染と早産 |
| 15 | 西島 正博 | 北里大学産婦人科 | 1997年1月24日, 25日 | 横浜(パシフィコ横浜) | 胎児循環と新生児循環—新生児遷延性肺高血圧症をめぐる諸問題 A: 原因・病態 B: 治療 |
| 14 | 桑原 慶紀 | 順天堂大学産婦人科 | 1996年1月20日, 21日 | 東京(順天堂大学有山記念 会館講堂ほか) | 周産期のPharmacology A: 発達薬理学; 胎児・未熟児の薬剤動態の特徴 B: 早産・PROMの治療に関する薬剤 |
| 13 | 多田 裕 | 東邦大学新生児科 | 1995年1月21日 | 東京(津田ホール) | 中枢神経系の発達障害からみた周産期医療 A: 周産期と発達障害 B: 脳白質軟化と周産期の要因 |
| 12 | 中野 仁雄 | 九州大学産婦人科 | 1994年1月21日, 22日 | 福岡(パピヨン24ガスホール) | 胎児治療/その適応と限界 A: 胎児治療の背景 B: 胎児治療の臨床 |
| 11 | 小川 雄之亮 | 埼玉医科大学総合医療 センター小児科 | 1993年1月23日 | 埼玉(西武本川越ペペ) | 多胎をめぐる諸問題 A: 多胎の諸問題 B: 双胎間輸血症候群 |
| 10 | 神保 利春 | 香川医科大学母子科 | 1992年1月18日 | 東京(きゅりあん) | 胎外生命維持のバイオロジー A: 生育限界と児の発達生理 B: 超未熟性と生育限界 |
| 9 | 柴田 隆 | 順天堂伊豆長岡病院 小児科 | 1991年1月20日 | 東京(順天堂大学有山記念 会館講堂) | A: 自己免疫疾患妊娠の基礎 B: 自己免疫疾患妊娠における母児管理 |
| 8 | 一條 元彦 | 奈良県立医科大学 産婦人科 | 1990年1月20日 | 大阪(国際交流センター) | A: ATL B: 先天性横隔膜ヘルニア |
| 7 | 武田 佳彦 | 東京女子医科大学 産婦人科 | 1989年1月21日 | 東京(東京女子医科大学弥生 記念講堂) | IUGR A: 病因と病態 B: 管理と予防 |

| | | | | | |
|---|-------|------------------|------------|----------------|---|
| 6 | 竹内 徹 | 大阪府立母子保健総合医療センター | 1988年1月23日 | 大阪(国際交流センター) | 胎児仮死および新生児仮死 A: 病因と病態 B: 診断と治療 |
| 5 | 新井 正夫 | 北里大学産婦人科 | 1987年1月17日 | 神奈川(県民ホール) | A: 先天性心疾患の診断と治療 B: 妊娠30週未満の分娩方法をめぐる諸問題 |
| 4 | 奥山 和男 | 昭和大学小児科 | 1986年1月18日 | 東京(プレスセンタービル) | A: 羊水に関する基礎と臨床 B: 妊娠中期における前期破水の管理 |
| 3 | 前田 一雄 | 鳥取大学産婦人科 | 1985年1月19日 | 東京(プレスセンタービル) | A: 胎児, 新生児頭蓋内出血の成因 B: 胎児, 新生児頭蓋内出血の診断 |
| 2 | 坂元 正一 | 東京大学産婦人科 | 1984年1月21日 | 東京(プレスセンタービル) | A: IN UTERO CHRONIC PREPARATION B: 中枢神経系の先天奇形とその取り扱い |
| 1 | 坂元 正一 | 東京大学産婦人科 | 1983年1月23日 | 東京(持田製薬ルークホール) | A: 胎児の機能的成熟; 超未熟児の生育をめぐって B: 非免疫性胎児水腫 |